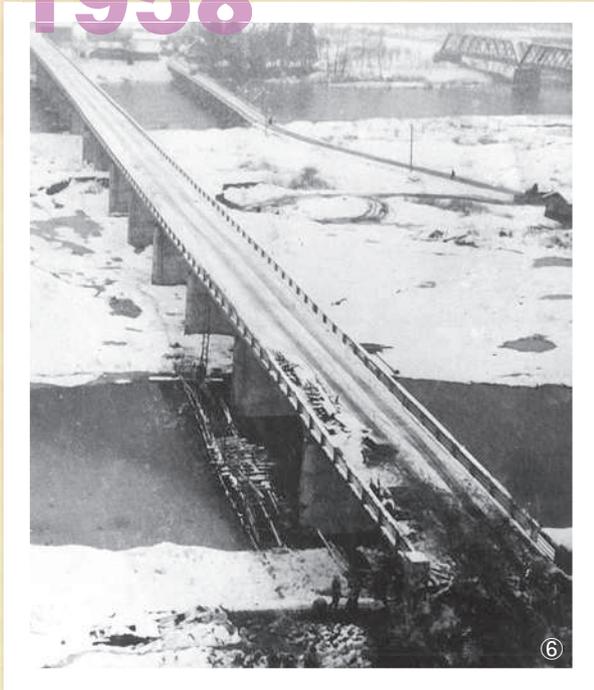


1958



現在の荒砥橋完成（昭和 32 年）

長さ 322.9 メートル、幅 5.5 メートル。
上流に見えるのは仮橋。
昭和 33 年 1 月 29 日に竣工式が行われた。
下の写真は当時の渡り初めの様子。



2010

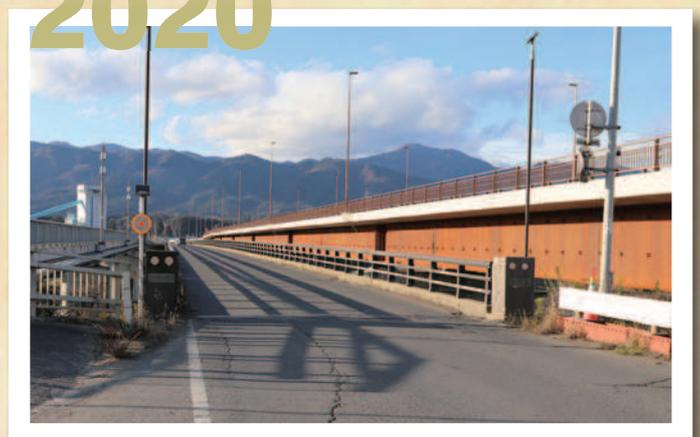


完成から 50 年以上たった荒砥橋。だいぶ老朽化が進んでいる様子。町民の生活には欠かせない橋であるため、その安全性が危惧され、町を挙げて架け替えの運動が行われた。

車の普及が進むにつれ、渋滞が発生。

荒砥橋の隣に見えるのが白鷹大橋。
白鷹大橋が開通し、今後は荒砥橋の撤去工事が始まるため、2つの橋が並んだ姿を見られるのも残りわずか。

2020

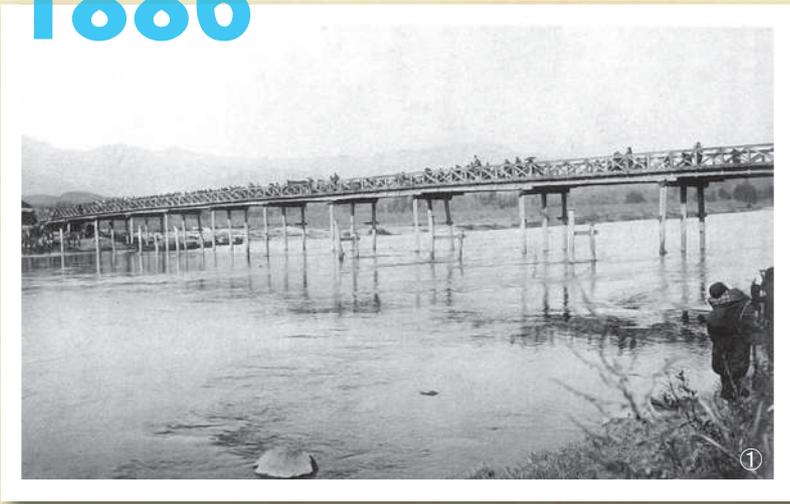


ありがとう。荒砥橋

1886

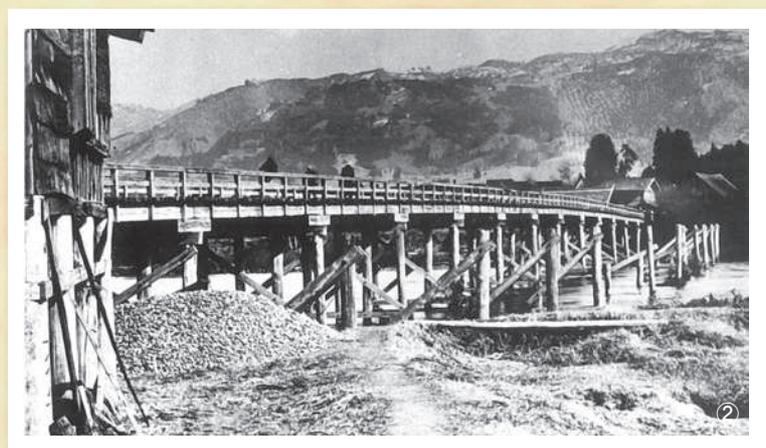
東西をつないだ架け橋

荒砥橋の歴史



荒砥側からみた下長井橋（荒砥橋）^{しも}

この橋が完成したのは明治19年とされている。
長さ75間（約136メートル）、幅3間（約5.5メートル）。



通行者から橋賃をとっていた頃の荒砥橋
（明治20年代）

橋賃は人が6厘、人力車1銭5厘、牛馬同。
鮎貝側（写真左）の茶屋で橋賃をとっていた。



老朽化が進んだ荒砥橋（昭和30年代）

橋がゆがみ、崩落が危惧された。昭和32年には一時、3トン以上の車が通行禁止となったことも。

※写真の出典：①～⑥「白鷹 思い出写真館」より
⑦山形県置賜総合支庁建設部西置賜道路計画課より提供